

拡張可能マーク付け言語 (XML) 1.0

概要

拡張可能マーク付け言語 (XML) は、SGML のサブセットであり、本ドキュメントにて全てを規定しています。XML の目標は、現在の HTML と同様に、Web 上で一般的な SGML を配布、受信、処理可能とする事です。XML は、容易な実装と、SGML や HTML との相互運用に対して設計されています。

本文書のステータス

本文書は、W3C メンバと他の作業グループによってレビューされ、W3C 勧告としてディレクタによって承認されています。本ドキュメントは安定しており、参考資料としての使用や、他のドキュメントで参考資料として引用できます。勧告における W3C の役割は、仕様の注意事項を書き、広範囲への展開を促進することです。これにより、Web の機能性や相互運用性が高まります。

本文書は、World Wide Web で使用するために、既存の広く使用されている国際テキスト処理標準 (Standard Generalized Markup Language, ISO 8879:1986(E) 改訂) をサブセット化することによって作られた構文を規定しています。これは、W3C XML 活動の成果であり、この詳細は <http://www.w3.org/XML> で見る事が出来ます。現在の W3C 勧告や他の技術ドキュメントの一覧は、<http://www.w3.org/TR> で見る事が出来ます。